

2019 年度後期 授業改善アンケート集計結果に対する意見

一文芸学部一

文芸学部長 林田伸一

授業改善アンケートにご協力いただいた学生諸君と教員のみなさんのご協力に、まずはお礼を申し上げます。2019 年度後期の文芸学部授業科目の実施対象科目数 469 に対して 405 科目で、実施必須科目数 233 に対して 228 科目で、アンケートが実施されました。

12 の質問項目のうち、設問 12 の授業時間外の学習時間に関する質問を除く 11 項目において 4.0 以上の値となり、教員、学生ともに熱意をもって授業に取り組んでいることが窺えます。

設問 12 の授業時間外の学習時間に関する回答から分かることは、授業時間外の学習を十分に行っていない学生が少なからず存在することであり、この点が改善されるよう教員、学生いずれの側の努力も望まれるところです。ただし、文芸学部について言えば、「⑤1.5 時間以上」「④1 時間以上 1.5 時間未満」との回答が他学部と比較するとやや多く、授業時間外の学習に熱心に取り組んでいる学生が一定数存在することが分かり、嬉しく思います。

授業のレベルが学生にとって適切であったかを問う設問 5 については、肯定的な回答が多かったのですが、否定的な回答をした学生は、「難しすぎる」と感じていたのでしょうか、「易しすぎる」と感じていたのでしょうか、そのどちらであるかが判ると、より教員の授業改善の助けになるでしょう。

授業で用いられた授業手法については、文芸学部と他の学部とそれほど差異が見られません。強いて言えば、(エ) の「質疑応答」が他学部よりわずかに多くなっています。これは、設問 7 「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」で肯定的な回答が他学部より若干多いことと対応していると見る事ができるでしょう。

授業を通じて身についた資質・能力についてのアンケートでは、84.6%が「この分野の知識・学力」が身についた、と回答しています。また、文芸学部の特徴として、(エ) の「言語運用能力」が他学部より高くなっています。これは、文芸学部における教育の成果としてまことに健全なものと言えるように思います。また、(イ)「論理的思考力」(オ)「構想力」(カ)「柔軟な発想力」の能力が身についたという回答がそれぞれ、13.5%、10.0%、9.8% ありました。そのように自らの能力の伸長を学生自身が意識すること自体も、4 年間を通しての成長にとって重要であろうと考えます。

以上